

わが

新たな千曲市の幕開け 「まちづくりのカタチ」をつくる

輝かしい歴史文化や
美しい自然を
未来に継ぐまち

千曲市は、長野県の北部に位置し、古来、交通の要衝として栄え



「一目十万本」とうたわれるあんずの里

てきました。市の中央部を貫流する千曲川（信濃川）を挟んだ兩岸には、人々の営みからはぐくまれた歴史遺産や文化財が数多く残っています。

右岸の川東地域には、シナノのクニ初代の王の墓である国史跡「森將軍塚古墳」があり、ふもとの集落では、3年に一度、重要無形民俗文化財「雨宮の神事芸能」による、豊作や洪水などの災い除けを祈願する勇壮な獅子踊りが舞われています。

左岸の川西地域には、名月の里として有名な「姨捨」があり、同地区の棚田は国の重要文化的景観に指定されています。毎年12月に行われる、選択無形民俗文化財の「武水別神社の頭人行事（大頭祭）」は、信濃路に冬の訪れを告げる風物詩となっています。また、明治

期に県内有数の商都として繁栄した稲荷山地区は、重要伝統的建造物群保存地区に指定され、整備を進めています。

こうした歴史・文化的遺産を活用したまちづくりを進めるべく、市では2016年に「千曲市歴史的风致維持向上計画」を策定し、国の認定を受けました。



眺望が見事な姨捨の棚田

史都がにぎわう
信州の交流拠点 千曲

本市は、「長野自動車道」と「上信越自動車道」が交差するほか、「国道18号」や「しなの鉄道」など県内の主要交通網のすべてが集中する都市であり、稀に見る「交通の要衝地」でもあります。そこで本市では、「史都がにぎわう 信州の交流拠点千曲」を将来の都市像として掲げ、今ある資源をさらに磨き上げることで、長野県を代表する広域交流拠点という特性を最大限生かしたまちづくりを目指しています。

一例として、JR東日本が運行する超豪華寝台列車「TRAIN SUITE四季島」が停車する、日本三大車窓の一つ「姨捨駅」から望む景色や、日本一のあんずの里、湯量豊富な美人の湯として有名な戸倉上山田温泉など、本市には風光明媚なビューポイントが数多くあります。こうした観光資源を生かし、アジアからのインバウン

ド、ロケツーリズムのほか、本市をホームタウンとするプロバスケットチーム「信州ブレイブウォリアーズ」を観光大使に任命するなど、観光地域づくりに向けて、さまざまな仕掛けを官民一体となつて推進しています。

「合併の総仕上げ」から「成長期」へ

本市は、本年度で合併後15年目の節目を迎え、合併の総仕上げと位置付けてきた事業が完了します。本年9月には、3000席を超える観客席を備えた新体育館がオープンするほか、2019年夏ごろには、「新市」の一体化の象徴として、合併時からの分庁舎を統合した「新庁舎」が開庁予定であり、行政窓口の統一や防災機能の充実を図ります。さらに、この新体育館や新庁舎に通ずる、全長約9kmにわたる市の主要道路「千曲線」が、本年6月に全線開通しました。このように、大規模なハード事業が完成しつつある今、本市は、「合併の総仕上げ」を経て、「新たなまちづくりのカタチ」をつくり出す「成長期」へと向かっています。

市民とともに歩む、まちづくりのカタチ

本市では、本年度から新たな地域づくりの仕組みとして、「第3次地域づくり計画」の運用がスタートします。本計画は、地域課題解決のために、区・自治会をはじめ、育成会や市民活動団体などさまざまな団体と行政が連携して取り組むことを目的としています。従来の「地域の要望に対して行政が応える」という仕組みに加え、地域が抱えている課題を、区・自治会から提案いただき、地域と行政との協働により解決を図ることで、「地域で支え合う力」の強化を目指します。

最近では、市民とともにまちをつくる発想や、「協働」という手法も、だいぶ認知されてきました。こうした、多様な主体によるさまざまな取り組みの継続と定着は、本市を愛する「千曲人」づくりにもつながります。市民による市民のためのまちづくりが一層進むことで、活力ある本市の創生に大きく貢献するものと期待をしています。今後とも、市民と行政が情報の共有化を図りながら、「協

働のまちづくり」を市民とともに推進していきます。

結びに

本市のこれからの「成長期」には、少子高齢・人口減少社会に対応するための「人に対する投資」が新たなテーマとなつてきます。「交通の要衝」「歴史や文化」「温泉・スポーツ・健康長寿」「自然と水辺」

といった、さまざまな特性や資源を生かし、それらを結びつけて人の流れを市内全域に循環させることで、交流人口や関係人口を通じて、市域全体の活気とにぎわいの創出を目指します。引き続き、市民の皆さまや地域との連携・交流を深めながら、多彩な知恵と力を結集し、元気なまちづくりを実現していきます。

プロフィール

- ◆ 面積 119.79 km²
- ◆ 人口 6万847人
- ◆ 世帯数 2万3765世帯

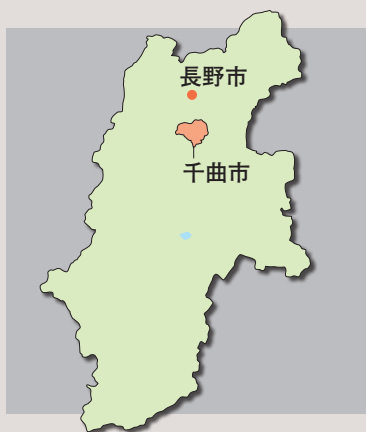
〔将来都市像〕科野の里さらしなはにしな 史都がにぎわう 信州の交流拠点 千曲

〔まちの特徴〕ゆたかな自然と社会が調和する、心豊かな、活力のある環境 文化都市

〔市町村合併〕2003年9月1日、更埴市、埴科郡戸倉町、更埴郡上山田町を合併



千曲市長
岡田昭雄



〔特産品〕あんず、トルコギキョウ、たまねぎ、ユメセイキ（小麦粉）、嫉捨正宗（日本酒）

〔観光〕あんずの里、嫉捨の棚田、戸倉上山田温泉、蔵のまち稲荷山、森將軍塚古墳

〔イベント〕あんずまつり、森將軍塚まつり、千曲川ハーフマラソン、戸倉上山田温泉夏祭り、信州千曲市千曲川納涼煙火大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

未来を予測するのではなく ここにしかない未来を創っていく

気球が飛び、
空がつながるまち、加西

2016年10月1日に、全国初となる「気球の飛ばまち加西条例」を施行しました。

加西市は、兵庫県の南部、播磨平野のほぼ中央に位置し、播磨内陸地域最大の平坦地を形成しています。大きな河川もなく、風の流



戦争遺産 鶉野飛行場跡地から大空へ飛び立つ気球

の飛行に適しており、11月から5月の週末には、気球愛好家が各地から集まりフライトを楽しんでいます。

本市には、もうひとつ空とまちをつなぐものがあります。

2016年に財務省からの払い下げを受けた姫路海軍航空隊鶉野飛行場跡地です。1943年（昭和18年）に開設され、滑走路は長さ約1200mあり、川

西航空機姫路製作所で製造、同鶉野工場で組み立てられた戦闘機「紫電改」などの試験・練習飛行が行われていました。ここで訓練を受けた多くの若者が戦地に飛び立ちました。滑走路は今もそのまま残り、周辺には、防空壕、機銃座など多くの歴史遺産があります。

空を飛ぶ気球から豊かな緑と無

数のため池が織りなす田園風景が見えます。かつて、鶉野飛行場から戦地に飛び立った若人たちも同じ風景を目にらし、遠い故郷を加西の風景に重ねたのかもしれない。この豊かな自然環境を受け継ぎ、熱気球が浮かぶ風景を財産としたまちづくりを進めることを目的とし、この気球条例を制定しました。

本年7月には、第2次世界大戦当時、空でつながっていた戦争遺産ゆかりの地の自治体間連携として、姫路市、宇佐市、鹿屋市とともに「空がつながるまち・ひとづくり推進協議会」を設立しました。現在の平和が尊い犠牲の礎の上にあることを後世に伝え、平和をテーマとした文化、観光振興と地域活性化を目指していきます。

加西の元気力
「人口を増やす施策から」

全国的に人口減少社会が到来している中、本市では、「5万人都市再生」という大きな目標を掲げ、住みやすく、活気あるまちづくりに取り組んでいます。これまで、中学3年生までの医療費や4、5歳児の保育料の無料化など子育て応援、U・J・I・Tの支援、若年層向け住宅供給の充実をはじめとした対策、新規就農者支援などを積極的に進めてきました。

これら人口増施策に加えて、地域に潜在する資源を引き出し、地域の元気をつくっていく本市ならではの施策を一層加速する必要があります。このような観点から、現在、中国自動車道加西インターチェンジ周辺の開発による「産業団地の創出」、鶉野飛行場跡地周辺整備による「歴史遺産の多様な活用」、歴史・文化を生かしたまちづくりによる「北条旧市街地の活性化」の3事業を重点施策と位置

付け、本市のポテンシャルを生かした施策を展開しています。

市民の思いと力が生きる 地域づくり

2013年に「ふるさと創造会議」という制度を創設しました。本市内には約140もの自治会があり、区長会組織がしっかり運営されています。今後、人口減少が進んでいく中で、それら自治会組織運営が厳しくなり、弱体化する可能性があります。自治機能を守っていくために、また、市が担う役割を移譲し、地域にある課題は地域で解決していくという仕組みを作るために、小学校区という少し大きな地区で組織するものが「ふるさと創造会議」です。

2017年度に、市内の11校区のすべてで設立されました。地区土地利用計画書を作成し、定住促進事業を実施しているところや、地元の大豆を使用した味噌を造り、学校給食に卸しているところ、加西アルプスの登山道整備を実施しているところなど、それぞれの活動に地域の特色と地

域力があります。今後、組織的な基盤をさらに固め、市の権限と財源を移譲していきます。

ここにしかない 地域資源と魅力発信

2017年、本市は市制50周年を迎えました。年間を通して式典や記念事業により、50年という節目を祝い、その軌跡を振り返ることと、ふるさと加西の文化や地域資源を再認識する機会でもありました。

本市は、1300年前に編纂された日本最古の地誌である『播磨



加西市こども狂言塾による新作狂言「根日女」

国風土記』のゆかりの地です。2015年5月に開催した「播磨国風土記1300年祭」のために、笛方藤田流十一世宗家の藤田六郎兵衛さんを総合プロデューサーとして迎え、哲学者の梅原猛さんが同風土記を題材に脚本を手掛け、新作能『針間』を、また、狂言師で俳優の野村萬斎さんが監修し、同風土記に記述のある恋伝説「根日女伝承」を題材にして書き下ろし

プロフィール

- ◆ 面積 150・22km²
- ◆ 人口 4万4562人
- ◆ 世帯数 1万7842世帯

〔将来都市像〕加西の元気力、加西の良さを活かした元気力の追求、〔まちの特徴〕兵庫県の南部、播州平野のほぼ中央に位置し、気候は温暖で安全で暮らしやすく歴史と花と緑が豊かなまち

〔特産品〕加西ねひめビーフ、加西ゴ



加西市長
西村和平



ルデンベリーA、加西とまと、加西いちご、山田錦
〔観光〕鷗野飛行場跡、兵庫県立フラワーセンター、玉丘史跡公園、五百羅漢、法華山一乗寺
〔イベント〕東光寺田遊び・鬼会、北条節句まつり、加西能、加西サイサイまつり、グリーンパークトライアスロンin加西

た新作狂言『根日女』を創作しました。地元の子どもたちで「加西市こども狂言塾」を立ち上げ、1年間しっかりと稽古を積み重ね、毎年5月に開催する「加西能」で披露しています。次世代を担う未来の子どもたちが、地域の伝統と文化をしっかりと受け継いでくれ、全国に加西の魅力を発信していきます。

※人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

夢と希望に満ちたまちづくり フルーツ王国うきは

フルーツ王国うきは

九州一の大河「筑後川」と「耳納連山」に囲まれた福岡県うきは市は、福岡都市圏から車で1時間も満たない近距離にありながら、水と緑に恵まれ、風光明媚な自然環境、田園風景を今なお保っています。

中山間、山麓部には棚田や果樹園、平坦部には古い町並みや米、



37種類の品種が収穫できるうきは市産の桃

麦、植木などのほ場が広がっています。また、古墳や神社、仏閣など歴史・文化遺産の多い地域であり、まさに日本の原風景がここにあるといっても過言ではありません。また海こそありませんが、平坦地、山麓部、中山間地、扇状地が広がる、大変起伏に富んだ地形を有し、かねてからこのような地形を生かして、農作物の適地適作が行われてきました。そして現在では、農業に従事される皆さまのたゆまぬ努力により、農業は基幹産業のひとつとなっています。特に本市では、いちごに始まり、桃やブルーベリー、ぶどう、梨、柿、イチジク、キウイ…といった四季折々のフルーツが1年中収穫できます。さらに、品種も豊富で、ぶどうは47種類、桃は37種類、梨は11種類、柿は16種類など、「フルー

ツ王国」としてPRに力を入れているところです。

うきはブランドの構築に向けて

このように、フルーツをはじめ豊富な農作物が生産されていますが、この本市の農作物の魅力を消費者の皆さまに伝えるために、これまで「水と緑のまち」肥沃な大地で生産されているので、とてもおいしいですよ、と定質的・情緒的に説明していましたが、このような説明では、なかなか納得が得られないのではないかと思います。

そこで、市では地方創生の取り組みの一環として、フルーツを中心とした農作物のブランド化に向け、地勢・地質・気候などの地理的特性にかかわる学術的調査を行



うきはの恵まれた農業環境を「うきはテロワール」として内外にPR

うきはは市長 高木典雄
い、うきはの大地が、いかに農作物の生産に適した自然環境を有しているかを定量的・科学的・数値的に立証し、「うきはテロワール」と名付けた新たな観点の下で、うきはブランドの構築を進めていきます。

地方創生に向けて

久留米市・大川市・小都市・大刀洗町・大木町とともに4市2町で構成される、久留米広域連携中枢都市圏のアンテナショップ「福岡久留米館」が2017年7月、東京新橋にオープンしました。圏域の知名度を上げ、交流人口・移住人口の増加と特産品の販路拡大が期待される中、本市においても「フルーツ王国うきは」の名を首都圏にPRする絶好の場ととらえています。

道の駅うきはにおいて、『九州じゃらん7月号』の九州・山口の「道の駅ランキング2018」において、3年連続の第1位となりました。また、重点「道の駅」に



江戸時代、五庄屋によってつくられた南新川

選定されている。道の駅うきはは、熊本地震や九州北部豪雨災害などの災害時には、避難場所、被災地の復旧活動における支援拠点、災害情報の提供拠点に位置付けられるなど、大きな機能を発揮しました。そのような中、新たに防災機能として国土交通省に防災広場の整備を行っていただいたところ。さらには、道の駅の一角に地域総合商社およびDMOの拠点として「ウキハコ」(うきはの魅力が詰まった箱)もオープンし、地方創生機能も有した道の駅に進

化しているところです。

ところで本年は明治改元が布告されてから、満150年の年に当たります。本市には、明治元年に小塩村に生まれ、福井県知事や名古屋市長などの要職を歴任した佐藤孝三郎氏や、そのご子息で1904年(明治37年)生まれの法制官僚であり、日本国憲法の政府原案を作り上げた佐藤達夫氏がおられます。また英文学者で、東京大学時代は芥川龍之介氏と首席を争い、九州大学法文学部英文科初代教授や青山学院大学長などを歴任した豊田實氏など明治期に活躍した偉人がたくさんおられます。地方創生といわれる中、明治期の人々のチャレンジ精神を知る機会を設け、これから本市を担う若い人たちに伝承していくことが重要です。そしてその精神を地域力の向上へ生かすことが必要だと考えています。

**歴史に学び、
大地を生かす、
夢と希望に満ちた
まちづくり**

かつての日本の原風景が残る、うきは市の新しい価値観は、本市

の日常の中に存在していると思います。弥生、古墳時代から農村社会が形成され、良質な土壌や地勢・気候にはぐくまれ、人々が生活し、そして現在に至った本市は、ほかの地域にはない優位性を持った地域であるといえます。知恵と工夫を凝らして、ほかの地域とは一味も二味も違う存在感

のある「うきはブランド」を構築することにより、本市の将来を担う子どもたちが、夢と希望を持つまちづくりに取り組んでいるところです。本市にお越しいただき、全身でうきはの魅力を感じてください。皆さまのお越しをお待ちしています。

プロフィール

- ◆ 面積 117.46 km²
- ◆ 人口 2万9945人
- ◆ 世帯数 1万1017世帯

〔将来都市像〕うきはブランドを絆で結ぶしあわせ彩るうきは市

〔まちの特徴〕南に耳納連山がそびえ、北に筑後川が流れ、豊かな自然に恵まれ、温かい人情があふれるまち

〔市町村合併〕2005年3月20日、旧浮羽郡吉井町と旧浮羽郡浮羽町の合併により誕生

〔特産品〕浮羽麺、フルーツ(柿、梨)



うきは市長
高木典雄



ぶどう、いちじく、桃、トマト、カーネーション、バラ、民陶一の瀬焼、地酒、茶、棚田米

〔観光〕筑後川温泉、吉井温泉、筑後吉井の白壁の町並み、つづら棚田(棚田百選)

〔イベント〕各種フルーツ祭り、筑後吉井おひなさまめぐり、小塩ほたる祭り、調音の滝滝開き、筑後川温泉花火大会、一の瀬陶器まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。